

パーキンソン病患者に対するトレッドミル歩行が歩行能力の急性効果に与える影響の検討

— 2019年4月1日～2025年12月31日の間に当院のリハビリテーションを受けられた方—

研究責任者 獨協医科大学日光医療センター リハビリテーション部 理学療法士 江原恭介

このたび当院では、パーキンソン病で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、研究責任者または分担者までご連絡をお願いします。

1. 研究の目的 及び 意義

パーキンソン病を患う人は増加傾向にあり、歩きづらさを主訴とし、転倒リスクも極めて高いです。パーキンソン病の歩行障害は歩行機会の減少に加え、社会参加の制限や生活の質の低下をもたらすことが考えられます。そこで、今回当院におけるパーキンソン病を患った患者さんの歩行能力の向上が認められているトレッドミルを用いた運動療法を実施した患者さんのデータを後方視的に解析することにより、歩行能力の急性効果について比較・検討します。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2019年4月1日～2025年12月31日の間に獨協医科大学日光医療センターにおいて、パーキンソン病を患った方で理学療法を受けられた20歳以上の方、50名を研究対象とします。

2) 研究実施期間

倫理審査委員会承認日 ～ 2026年3月31日

3) 研究方法

上記1)の患者さんを対象としています。研究者が下記4)の診療情報について理学療法の有効性に関して分析し、パーキンソン病を患った患者さんへのリハビリと歩行能力の改善に役立てます。

4) 使用する試料・情報

研究に使用する試料・情報として以下の情報を抽出し使用させていただきます。

〈診療情報〉

背景調査：年齢、生年月日、性別、既往・合併症、併用薬

理学療法評価：Unified Parkinson's Disease Rating Scale、片脚立位時間、
Functional Reach Test、等尺性膝伸展筋力、Timed Up & Go test、
6分間歩行距離、10m最大歩行速度

なお、患者さんの個人情報は削除し、匿名化して、プライバシー保護には細心の注意を払います。

5) 試料・情報の保存

本研究に使用した試料・情報は、研究発表後5年間リハビリテーション部で厳重に保管され、匿名化した状態で紙データはシュレッターし、電子データは完全に消去します。なお、保存した試料・情報を用いて新たな研究を行う際は、当院のHPまたはリハビリテーション部にポスターを掲示してお知らせします。

6) 研究計画書の開示

患者さんのご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

7) 研究成果の取扱い

この研究の成果は、患者さんのデータを個人情報にならない形にした上で、学会や論文で発表する予定ですのでご了解ください。

8) 問い合わせ・連絡先

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先にお申し出ください。その場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

研究代表責任者：獨協医科大学日光医療センター リハビリテーション部 理学療法士 江原恭介
問合せ先：獨協医科大学日光医療センター リハビリテーション部

電話：0288-23-7000（平日：9時00分～17時00分）

FAX：0288-23-5000

郵送先：〒321-1298 栃木県日光市森友145-1

獨協医科大学日光医療センター リハビリテーション部

この研究組織

研究の代表責任者、分担者は下記のとおりです。

研究代表責任者	獨協医科大学日光医療センター	リハビリテーション部	理学療法士	江原恭介
研究分担者	獨協医科大学日光医療センター	脳神経内科	学内准教授	渡邊由佳
〃	獨協医科大学日光医療センター	リハビリテーション部	理学療法士	大館隼
〃	獨協医科大学日光医療センター	リハビリテーション部	作業療法士	飯塚裕介
〃	獨協医科大学日光医療センター	リハビリテーション部	言語聴覚士	鈴木康史